

法律案

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル治安警察法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

明治三十三年三月九日

内閣總理大臣
内務大臣

法律第三十六號

上奏案ノ通

内中記一七

五

別紙奏上有之度候也

明治三十三年二月廿三日

衆議院議長片岡健吉



内閣總理大臣侯爵山縣有朋殿

衆議院書記官長林田角太郎



衆議院ハ兩院ノ議ヲ經タル治安
警察法案ノ裁可ヲ奉請ス

明治三十三年二月二十三日

衆議院議長片岡健吉

衆議院書記官長 林田龜太郎

治安警察法

第一條 政事ニ關スル結社ノ主幹者(支社ニ在リテハ支社ノ主幹者)ハ結社組織ノ日ヨリ三日以内ニ社名、社則、事務所及其ノ主幹者ノ氏名ヲ其ノ事務所所在地ノ管轄警察官署ニ届出ツヘシ其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

前項ノ届出ヲ爲ササル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條 政事ニ關シ公衆ヲ會同スル集會ヲ開カムトスル者ハ發起人ヲ定ムヘシ

發起人ハ到達スヘキ時間ヲ除キ開會三時間以前ニ集會ノ場所、年月日時ヲ會場所在地ノ管轄警察官署ニ届出ツヘシ

届出ノ時刻ヨリ三時間ヲ過キテ開會セス若ハ三時間以上中斷スルトキハ届出ハ其ノ效ヲ失フ法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲ニ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者ニ

限リ會同スル所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間ハ本條第二項ノ届出ヲ要セス

第一項第二項ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二項ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條 公事ニ關スル結社又ハ集會ニシテ政事ニ關セサルモノト雖安寧秩序ヲ保持スル爲届出ヲ必要トスルモノアルトキハ命令ヲ以テ第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

第四條 屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ若ハ多衆運動セムトスルトキハ發起人ヨリ十二時間以前ニ會同スヘキ場所年月日時及其ノ通過スヘキ路線ヲ管轄警察官署ニ届出ツヘシ但シ祭葬講社、學生、生徒ノ體育運動其ノ他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十項ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 左ニ掲クル者ハ政事上ノ結社ニ加入スルコトヲ得ス

一 現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人

二 警察官

三 神官神職、僧侶、其他諸宗教師

三 官立公立私立學校ノ教員學生生徒

四 女子

五 未成年者

六 公權剝奪及停止中ノ者

未成年者ハ公衆ヲ會同スル政談集會ニ會同シ若ハ其ノ發起人タルコトヲ得ス

公權剝奪及停止中ノ者ハ公衆ヲ會同スル政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

第六條 日本臣民ニ非サル者ハ政事上ノ結社ニ加入シ又ハ公衆ヲ會同スル政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

第七條 前二條ヲ犯シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

前二條ニ背キ入社セシメタル者ハ罰前項ニ同シ

四

第八條 結社ハ法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニ對シテ其ノ發言表決ニ付議會外ニ於テ責任ヲ負ハシムルノ規定ヲ設クルコトヲ得ス

第九條 安寧秩序ヲ保持スル爲必要ナル場合ニ於テハ警察官ハ集會又ハ多衆ノ運動若ハ群集ヲ制限シ又ハ禁止スルコトヲ得
○屋外ノ集會又ハ多衆ノ運動若ハ群集ヲ解散

結社ニシテ前項ニ該當スルトキハ内務大臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ制限又ハ禁止ヲ受ケ仍之ヲ犯シタル者ハ六月以下ノ輕禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 集會ニ於テハ重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ヲ公判ニ付セサル以前ニ講談論議シ又ハ傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ヲ講談論議スルコトヲ得ス

集會ニ於テハ犯罪ヲ煽動若ハ曲庇シ又ハ犯罪人若ハ刑事被告人ヲ賞恤若ハ救護シ又ハ刑事被告

人ヲ陷害スルノ講談論議ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 集會ニ於ケル講談論議ニシテ前條ノ規定ニ違背シ其ノ他安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害スル場合ニ於テハ警察官ハ其ノ人ノ講談論議ヲ中止スルコトヲ得
○ルビニテアリ

前條ヲ犯シ又ハ本條ノ中止ニ背キタル者ハ三月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 結社、集會又ハ多衆運動ニ關シ警察官ノ尋問アリタルトキハ主幹者、會長、發起人ニ於テ又ハ警察官ノ主タル社員若ハ主タル會同者ト認ムル者ニ於テ之ニ答フヘシ

警察官署ハ制服ヲ著シタル警察官ヲ派遣シ政事ニ關シ公衆ヲ會同スル集會ニ臨監セシムルコトヲ得其ノ集會ニシテ政事ニ關セサルモノト雖安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルトキ亦同シ此ノ場合ニハ發起人ニ於テ又ハ警察官ノ主タル會同者ト認ムル者ニ於テ警察官ノ求ムル席ヲ供

スヘシ

五

第十項ノ尋問ニ答ヘヌ若ハ答フルモ實ヲ以テセス又ハ第二項ノ場合ニ於テ警察官ノ臨監ヲ拒ミ若ハ其ノ求ムル席ヲ供セサル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 集會又ハ多衆運動ノ場合ニ於テ故ヲ喧擾シ又ハ狂暴ニ涉ル者アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ現場ヨリ退去セシムルコトヲ得退去ヲ命セラレタルモ仍退去セサル者ハ一月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 集會及多衆ノ運動ニ於テハ戎器又ハ兇器ヲ携帯スルコトヲ得ス但シ制規ニ依リ戎器ヲ携帯スル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ違背シタル者ハ三月以下ノ輕禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 祕密ノ結社ハ之ヲ禁ス犯ス者ハ六月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十六條 法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員議事準備ノ爲ニ相團結スルモノニ對シテハ第一條及

第五條ヲ適用セス

第十七條 街頭其ノ他公衆ノ自由ニ交通スルコトヲ得ル場所ニ於テ文書、圖畫、詩歌ノ揭示、頒布、朗

讀若ハ放吟又ハ言語形容其ノ他ノ作爲ヲ爲シ其ノ狀況安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害スト認ムル

トキハ警察官ニ於テ禁止ヲ命スルコトヲ得其ノ命ニ從ハサル者ハ一月以下ノ輕禁錮又ハ三十圓

以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 左ノ各號ノ目的ヲ以テ他人ニ對シテ暴行、脅迫シ若ハ公然誹毀シ又ハ第二號ノ目的ヲ

以テ他人ヲ誘惑若ハ煽動スル者ハ十月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金

ヲ附加ス使用者ノ同盟解雇又ハ勞務者ノ同盟罷業ニ加盟セサル者ニ對シテ暴行シ脅迫シ若ハ公

然誹毀スル者亦同シ

一 勞務ノ條件又ハ報酬ニ關シ協同ノ行動ヲ爲スヘキ團結ニ加入セシメ又ハ其ノ加入ヲ妨クル

コト

二 同盟解雇若ハ同盟罷業ヲ遂行スルカ爲使用者ヲシテ勞務者ヲ解雇セシメ若ハ勞務ニ從事ス

ルノ申込ヲ拒絶セシメ又ハ勞務者ヲシテ勞務ヲ停廢セシメ若ハ勞務者トシテ雇傭スルノ申込ヲ拒絶セシムルコト

三 勞務ノ條件又ハ報酬ニ關シ相手方ノ承諾ヲ強ユルコト

耕作ノ目的ニ出ツル土地賃貸借ノ條件ニ關シ承諾ヲ強ユルカ爲相手方ニ對シ暴行、脅迫シ若ハ公然誹毀スル者ハ罰前項ニ同シ

第十九條 行政官廳ハ安寧秩序ヲ保持スル爲必要ト認ムルトキハ戎器、爆發物又ハ戎器ヲ仕込ミタル物件ノ携帯ヲ禁スルコトヲ得

第十九條 第一條ニ違背シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處シ第一條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第二條第一項又ハ第二項ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處シ第二項ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 第四條ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處シ第四條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 第五條又ハ第六條ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス第五條又ハ第六條ニ違背シ入社セシメタル者亦同シ

第二十三條 第八條第一項ノ制限若ハ禁止ノ命ニ違背シ又ハ解散ヲ命セラレタル後仍退散セサル者ハ二月以下ノ輕禁錮又ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條第二項ノ禁止ノ命ニ違背シタル者ハ六月以下ノ輕禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第九條ニ違背シ又ハ第十條ノ中止ノ命ニ違背シタル者ハ三月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 第十一條第一項ノ尋問ニ答ヘス若ハ答フルモ實ヲ以テセス又ハ第二項ノ場合ニ於テ警察官ノ臨監ヲ拒ミ若ハ其ノ求ムル席ヲ供セサル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第十二條ニ依リ退去ヲ命セラレタル後仍退去セサル者ハ一月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第十三條ニ違背シタル者ハ三月以下ノ輕禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 秘密ノ結社ヲ組織シ又ハ秘密ノ結社ニ加入シタル者ハ六月以上一年以下ノ輕禁錮

ルノ申込ヲ拒絶セシメ又ハ勞務者ヲシテ勞務ヲ停廢セシメ若ハ勞務者トシテ雇傭スルノ申込ヲ拒絶セシムルコト

三 勞務ノ條件又ハ報酬ニ關シ相手方ノ承諾ヲ強ユルコト

耕作ノ目的ニ出ツル土地賃貸借ノ條件ニ關シ承諾ヲ強ユルカ爲相手方ニ對シ暴行ヲ曾迫シ若ハ

爲スモ實ヲ以テセサル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 第四條ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處シ第四條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 第五條又ハ第六條ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス第五條又ハ第六條ニ違背シ入社セシメタル者亦同シ

第二十三條 第八條第一項ノ制限若ハ禁止ノ命ニ違背シ又ハ解散ヲ命セラレタル後仍退散セサル者ハ二月以下ノ輕禁錮又ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條第二項ノ禁止ノ命ニ違背シタル者ハ六月以下ノ輕禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第九條ニ違背シ又ハ第十條ノ中止ノ命ニ違背シタル者ハ三月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 第十一條第一項ノ尋問ニ答ヘス若ハ答フルモ實ヲ以テセス又ハ第二項ノ場合ニ於テ警察官ノ臨監ヲ拒ミ若ハ其ノ求ムル席ヲ供セサル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第十二條ニ依リ退去ヲ命セラレタル後仍退去セサル者ハ一月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第十三條ニ違背シタル者ハ三月以下ノ輕禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 秘密ノ結社ヲ組織シ又ハ秘密ノ結社ニ加入シタル者ハ六月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第二十九條 第十六條ノ禁止ノ命ニ違背シタル者ハ一月以下ノ輕禁錮又ハ三十圓以下ノ罰金ニ

處ス

第三十條 第十七條ニ違背シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下

ノ罰金ヲ附加ス使用者ノ同盟解雇又ハ勞務者ノ同盟罷業ニ加盟セサル者ニ對シテ暴行、脅迫
シ若ハ公然誹毀スル者亦同シ

第三十一條 第十八條ノ禁ヲ犯シタル者ハ六月以下ノ重禁錮ニ處ス

~~第三十二條~~
~~第三十三條~~

前項ニ違背シタル者ハ六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第三十二條 本法ニ關スル公訴ノ時效ハ六箇月トス

第三十三條 集會及政社法ハ之ヲ廢止ス



内務大臣提出治安警察法案

右謹テ上奏シ恭シク

聖裁ヲ仰キ併セテ帝國議會ノ議ニ

付セラレムコトヲ請フ

明治三十三年二月十日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

内甲四一七

明治三十三年二月七日

内閣總理大臣

法制局長官

外務省	陸軍省	海軍省	文部省	逓信省
大藏省	司法省	農商省		

別紙内務大臣請議治安警察法案ヲ審査
 スルニ政運ノ進歩ニ伴ヒ現行集會及政社法
 ヲ改正シ政事ノ外公事ニ関シ取締ノ規定
 ヲ設ケ其他同盟解雇同盟罷業等ニ付制

裁ヲ設ケレトスルモノニシテ治安ノ保持上不得
已儀ト思考スレハ請儀ノ通閣議決定帝國
議會ニ提出セラレ可然ト認ム

法律案

呈案附箋ノ通

治安警察法案

右
勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治三十三年二月十三日(家)

内閣総理大臣

内務大臣

參照

○集會及政社法明治二十六年四月
法律第十四號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル集會及政社法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
集會及政社法

第一條 此ノ法律ニ於テ政談集會ト稱フルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政治ニ關ル事項ヲ講談
論議スル爲公衆ヲ會同スルモノヲ謂フ政社ト稱フルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス政事ニ關ル
事項ヲ目的トシテ團體ヲ組成スルモノヲ謂フ

第二條 政談集會ニハ發起人ヲ定ムヘシ

政談集會ヲ開クトキハ發起人ヨリ開會二十四時間以前ニ會場所在地ノ管轄警察官署ニ届出ヘシ
政談集會ノ届出ニハ左ノ事項ヲ記載シ發起人署名捺印スヘシ

- 一 集會ノ場所
 - 二 集會ノ年月日時
 - 三 發起人ノ氏名、住所
 - 四 講談論議者ノ氏名
- 前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領收書ヲ交付スヘシ
届書ニ記載シタル時刻ヨリ三時間ヲ過キテ開會セス若ハ三時間以上中斷スルトキハ届出ノ効ヲ失
フモノトス
法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲ニ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者ニ限
リ會同スル所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間ハ第二項ノ届出ヲ要セス

第三條 屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ若ハ多衆運動セムトスルトキハ發起人ヨリ二十四時間以前ニ會同スヘキ場所、年月日時及其ノ通過スヘキ路線ヲ管轄警察官署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ但シ祭葬、講社、學生生徒ノ體育運動其ノ他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス
屋外ニ於テ政談集會ヲ開キ又ハ政治ニ關ル意志ヲ表スルノ目的ヲ以テ公衆ヲ會同スルハ堅固ナル屏障ヲ設ケ自由ノ交通ヲ遮斷シタル地域内ニ限ルモノトス
警察官署ハ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ何等ノ場合ニ拘ラス屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ禁止スルコトヲ得

第四條 帝國議會開會ヨリ閉會ニ至ルノ間ハ議院ヲ距ル三里以内ニ於テ屋外ノ集會又ハ多衆運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ第三條第一項ノ但書ハ本條ニ於テモ之ヲ適用ス

第五條 左ニ掲クル者ハ政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

- 一 日本臣民ニ非ラサル者
- 二 公權剝奪及停止中ノ者
- 第六條 左ニ掲クル者ハ政談集會ニ會同シ若ハ其ノ發起人タルコトヲ得ス
 - 一 現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人
 - 二 警察官
 - 三 官立公立私立學校ノ教員學生生徒
 - 四 女子

五 未成年者

法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲ニ開ク所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間ハ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者ニ限リ本條ノ制限ニ依ルヲ要セス

第七條 政談集會ニ於テハ日本臣民ニ非サル者ヲシテ講談論議者タラシムルコトヲ得ス

第八條 警察官署ハ制服ヲ著シタル警察官ヲ派遣シ政談集會ニ臨監セシムルコトヲ得

發起人ハ臨監警察官ニ其ノ求ムル所ノ席ヲ供シ且集會ニ關ル事項ニ付尋問アルトキハ之ニ答フヘシ

政談集會ニアラサルモ其狀況安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムル集會ニハ第一項ノ臨監ヲ爲スコトヲ得

第九條 集會及運動ニハ戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ會同スルコトヲ得ス但シ制規ニ依リ戎器ヲ携帯スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 集會ニ於テ罪犯ヲ曲庇シ又ハ刑律ニ觸レタル者若ハ刑事裁判中ノ者ヲ救護シ又ハ賞恤シ又ハ犯罪ヲ教唆スルノ談論ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 會場ニ於テ故ラニ喧擾ヲ爲シ又ハ狂暴ニ渉ル者アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ會場外ニ退出セシムルコトヲ得

第十二條 集會ニ於テ講談論議安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ警察官ハ其ノ人ノ講談論議ヲ停止スルコトヲ得

第十三條 警察官ハ左ノ場合ニ於テ集會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

一 集會ノ成立此ノ法律ニ背キタルトキ

二 警察官ノ臨場ヲ拒ミ又ハ其ノ求ムル所ノ席ヲ供セス又ハ其ノ尋問ニ答ヘサルトキ

三 會衆騷擾ニ涉リ警察官之ヲ制止スルモ鎮靜セサルトキ

四 第六條第九條ノ違反者多數ニシテ警察官ヨリ退場ヲ命スルモ其ノ命ニ從ハサルトキ

五 集會ノ狀況安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキ

第十四條 第二條ノ届出ヲ爲サスシテ政談集會ヲ開キタルトキハ發起人ヲ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發起人罰前項ニ同シ

第十五條 第三條ノ認可ヲ受ケスシテ集會若ハ運動ヲ爲シタルトキハ發起人ヲ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第四條ヲ犯シタルトキハ發起人ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 第五條第六條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條ヲ犯シタル發起人又ハ政談集會ニ會同スルコトヲ得サル者ヲ勸誘シテ會同セシメタル發起人ハ罰前項ニ同シ

第十八條 第九條ヲ犯シタル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第十條ヲ犯シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 警察官ヨリ解散ヲ命セラレタル後仍退散セサル者又ハ退出ヲ命セラレタル後仍退出セサル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 政社ニハ社員名簿ヲ備ヘ及役員ヲ置クヘシ

政社ハ組成後三日以内ニ其ノ役員ヨリ社名、社則、事務所及役員ノ氏名ヲ其ノ事務所所在地ノ管轄警察官署ニ届出ヘシ其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

前項ノ届出アリタルトキハ警察官署ハ直ニ其ノ領収證ヲ交付スヘシ

役員ハ其政社ニ關ル事項ニ付警察官ヨリ尋問アルトキハ之ニ答フヘシ

第二十二條 政社ニシテ政談集會ヲ開クトキハ第二條ノ手續ヲ爲スヘシ但シ此會場及講談論議者ヲ豫定シ定期ニ集會スルモノハ之ヲ初期ノ開會二十四時間以前ニ届出ルトキハ爾後ノ例會ハ届出ヲ要セス其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキハ仍第二條ノ手續ニ依ルヘシ

第二十三條 左ニ掲クル者ハ政社ニ加入スルコトヲ得ス

一 現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人

二 警察官

三 官立公立私立學校ノ教員學生生徒

四 女子

五 未成年者

六 公權剝奪及停止中ノ者

第二十四條 政社ニ於テハ日本臣民ニ非サル者ヲシテ加入セシムルコトヲ得ス

第二十五條 政社ハ標章及旗幟ヲ用ルコトヲ得ス

第二十六條 政社ハ他ノ政社ト連結スルコトヲ得ス

第二十七條 政社ニ於テハ法律ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニ對シテ其ノ發言表決ニ付議會外ニ於テ責任ヲ負ハシムルノ規定ヲ設クルコトヲ得ス

第二十八條 政社ニシテ支社ヲ設クルトキハ總テ政社ノ規定ニ依ル

第二十九條 結社ニシテ安寧秩序ニ妨害アリト認ムルトキハ内務大臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得

第三十條 第二十一條ニ違フトキハ其ノ役員ヲ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセス又ハ尋問ヲ受ケテ答フルニ實ヲ以テセサル役員ハ罰前項ニ同シ

第三十一條 第二十三條ニ背キ入社シタル者及入社セシメタル役員ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條ヲ犯シタル役員ハ罰前項ニ同シ

第三十二條 第二十五條ニ背キ標章旗幟ヲ用ル者及其ノ政社ノ役員ハ罰前條ニ同シ

第三十三條 第二十六條ヲ犯シタルトキハ其ノ役員ヲ十一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第二十九條ノ禁止ノ命ニ從ハスシテ仍結社ノ實アル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 此ノ法律ヲ犯シタル者ハ刑法ノ自首減輕、再犯加重、數罪俱發ノ例ヲ用ル

第三十六條 此ノ法律ニ關ル公訴ノ時効ハ六箇月ヲ經過スルニ由テ成就ス

第三十七條 法律命令ニ定ムル所ノ集會ハ此ノ法律ニ依ルノ限ニ在ラス

法制局 第二十二號

別紙治安警察法案閣議提出ス

明治三十二年十月六日

内務大臣侯爵西郷從道

内閣總理大臣侯爵山縣有朋



治安警察法按帝國議會提出ノ件

集會及政社法ノ規定ハ取締上不備ヲ感スルモ
ナリ又徒ニ人民ノ煩累ヲ及ホスモノアリ且集會
結社以外ニ於テモ取締ノ規定ヲ要スルモノアリ
例ハ街頭其他ノ場所ニ於テ治安秩序若ハ風
俗ヲ害スヘキ所為ヲ為ス者ノ如キ同盟解雇同盟
罷業ニ關シテ暴行脅迫若ハ誹毀ノ所為ニ涉ルカ
キハ作人ニシテ地主ヲ強要スルカ如キ濫リニ
我器爆
發物若ハ仕込我器ヲ弄シテ治安秩序ヲ妨害
スルカ如キ則是ナリ因テ集會及政社法ハ之ヲ廢
止シ實際取締上ノ必要ニ應スルカ為別ニ治安警察法
ヲ制定セラレシコトヲ望ム乃チ別紙治安警察法按
今期帝國議會提出相成度茲ニ閣議ヲ請フ

明治三十二年

内務大臣 侯爵 西郷 從道



治安警察法

第一條

政事ニ関スル結社、主幹者（支社ニ在
ラハ支社、主幹者）ハ結社組織、日ヨリ三日
以内ニ社名、社則、事務所及其、主幹者
ノ氏名ヲ具シ、事務所所在地、管轄警察
官署ニ届出ヘシ具シ、届出ノ事項ニ變更ア
リタルトキ亦同シ

前項ノ届出ヲ為ササル者ハ三十圓以下、罰金
ニ處シ、届出ヲ為スモ實テ以テセサル者ハ五十圓
以下、罰金ニ處ス

第二條

政事ニ関シ公衆ヲ會同スル集會ヲ開カ
ムトスル者ハ發起人ヲ定ムルハシ

發起人ハ到達スルキ時間ヲ除キ開會三時間
以前、集會場所、年月日時ヲ會場所
在地、管轄警察官署ニ届出シ
届出ノ時刻ヨリ三時間ヲ過キテ開會セス者ハ三
時間以上中断スルトキハ届出ハ其效ヲ失フ
法令ヲ以テ組織シタル議會、議員選舉準備
、為ニ選舉權ヲ行フ者及被選舉權ヲ有
スル者ニ限リ會同スル所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ
前五十日間ハ本條第二項ノ届出ヲ要セス
第一項第二項ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰
金、處ス
第二項ノ届出ヲ為スモ實ヲ以テセサル者ハ三十圓
以下ノ罰金、處ス

第三條 公事ニ関スル結社又ハ集會ニシテ政事
ニ関セサルモノト雖、治安秩序ヲ保持スル
、為ニ届出ヲ必要トスルモノアルトキハ命令ヲ以テ
第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得
第四條 屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ若ハ多衆運
動セムトスルトキハ發起人ヨリ十二時間以前ニ會
同スルキ場所、年月日時及具ノ通過スルキ路
線ヲ管轄警察官署ニ届出ヘシ但シ祭葬講
社、學生、生徒、體育運動具、他慣例、許
ス所ニ係ルモノハ以テ限ニ在ラズ
前項ニ違背シタル者ハ
二十圓以下ノ罰金、處ス
第一項ノ届出ヲ為スモ實ヲ以テセサル者ハ三十圓

以下、罰金ニ處ス

第五條 左ニ掲クル者ハ政事上、結社ニ加入スル

コトヲ得ス

一 現役及召集中、豫備後備、陸海軍軍人

ニ 警官

三 官立公立私立學校、教員學生生徒

四 女子

五 未成年者

六 公権剝奪及停止中、者

未成年者ハ以談集會、會同シ若シ其、發起人

タルコトヲ得ス

公権剝奪及停止中、者ハ以談集會、發起人

タルコトヲ得ス

第六條 日本臣民ニ非ナル者ハ政事上、結社ニ加

ハシ又ハ公衆ヲ會同スル政談集會、發起人タル

コトヲ得ス

第七條 前二條ヲ犯シタル者ハ二十圓以下ノ罰金

ニ處ス

前二條ニ背テ入社セシメタル者ハ罰前項ニ同シ

第八條 結社ニ加入シテ法令ヲ以テ組織シタル議

會ノ議員ニ對シテ其、發言表決ニ付、議會

外ニ於テ責任ヲ負ハシムルノ規定ヲ設ケルコトヲ得

ス

第九條 治安秩序ヲ保持スル為ニ必要ナル場合

ニ於テハ警察官ハ集會ニ多衆ノ運動者ハ

群集ヲ制限シ又ハ禁止スルコトヲ得

以下、罰金ニ處ス

第五條 左ニ掲クル者ハ政事上、結社ニ加入スル

コトヲ得ス

一 現役及召集中、豫備後備、陸海軍軍人

ニ 警官

三 官立公立私立學校、教員學生生徒

四 女子

五 未成年者

六 公権剝奪^{（公権剥奪）}中、者

未成年者ハ^{（未成年者）}談集會、會同シ 其、發起人

タルコトヲ得ス

公権剝奪及停止中、者ハ^{（公権剝奪）}談集會、發起人

タルコトヲ得ス

第六條 日本臣民ニ非カル者ハ政事上、結社ニ加

ヘシ又ハ公衆ヲ會同スル談集會、發起人タル

コトヲ得ス

第七條 前二條ヲ犯シタル者ハ二十圓以下ノ罰金

ニ處ス

前二條ニ背キ入社セシメタル者ハ罰前項ニ同シ

第八條 結社ニ加入シテ法令ヲ以テ組織シタル議

會ノ議員ニ對シテ其ノ發言表決ニ付、議會

外ニ於テ責任ヲ負ハシムルノ規定ヲ設クルコトヲ得

ス

第九條 治安秩序ヲ保持スル為ニ必要ナル場合

ニ於テハ警察官ハ集會ヲ多衆ノ運動者ハ

群集ヲ制限シ又ハ禁止スルコトヲ得

結社ニシテ前項ニ該當スルトキハ内務大臣ハ之ヲ
禁止スルコトヲ得此場合ニ於テ違法處分ニ由リ權利ヲ傷
ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ制限又ハ禁止ヲ受ケ仍之ヲ犯シタル者
ハ六月以下ノ輕禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 集會ニ於テハ重罪輕罪ノ豫審ニ関スル
事項ヲ公判ニ付セザル以前ニ講談論議シ又ハ
傍聴ヲ禁シタル訴訟ニ関スル事項ヲ講談論議
スルコトヲ得

第十一條 集會ニ於テハ犯罪ヲ煽動若ハ曲庇シ
又ハ犯罪人若ハ刑事被告人ヲ賞恤若ハ救護シ又ハ刑
スルノ講談論議ヲ為スコトヲ得

第十二條 集會ニ於テハ前條ノ規定ニ違

背シ且ノ他安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害スト
認ルル場合ニ於テハ警察官ハ其ノ人ノ講談論
議ヲ中止スルコトヲ得

前條ヲ犯シ又ハ本條ノ中止ニ背キタル者ハ三
月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上五十圓以下ノ罰
金ニ處ス

第十三條 結社集會又ハ多衆運動ニ関シ警察
官ノ尋問アリタルトキハ主幹者、會長、發起
人ニ於テ又ハ警察官ノ主タル社員若ハ主タル會
同者ト認ルル者、於テ之ニ答フヘシ

警察官署ハ制服ヲ着シタル警察官ヲ派遣
シ政事ニ関シ集會ニ臨監セシムルコトヲ得其ノ
集會ニシテ政事ニ関セザルモノト雖、安寧秩序

結社ニシテ前項ニ該當スルトキハ内務大臣ハ之ヲ
禁止スルコトヲ得、此、場合ニ於テ違法處分ニ由リ權利ヲ傷
ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十條 集会ニ於テハ重罪輕罪、豫審ニ関スル
事項ヲ公判ニ付セザル以前ニ講談論議シ又ハ
傍聴ヲ禁シタル訴訟ニ関スル事項ヲ講談論議
スルコトヲ得

第十一條 集会ニ於テハ犯罪ヲ煽動若ハ曲庇シ
又ハ犯罪人若ハ刑事被告人ヲ賞恤若ハ救罪刑事被告
スルノ講談論議ヲ為スコトヲ得

第十二條 集会ニ於テハ前條ノ規定ニ違
背シ且ノ他安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害スト
認ルル場合ニ於テハ警察官ハ且ノ人ノ講談論
議ヲ中止スルコトヲ得

第十三條 結社集会又ハ多衆運動ニ関シ警察
官ノ尋問アリタルトキハ主幹者、會長、發起
人ニ於テ又ハ警察官ノ主タル社員若ハ主タル會
同者ト認ルル者、於テ之ニ答フヘシ
警察官署ハ制服ヲ着シタル警察官ヲ派遣
シ政事ニ関シ集會ニ臨監セシムルコトヲ得其、
集会ニシテ政事ニ関セザルモノト雖、安寧秩序

第十四條 結社集会又ハ多衆運動ニ関シ警察
官ノ尋問アリタルトキハ主幹者、會長、發起
人ニ於テ又ハ警察官ノ主タル社員若ハ主タル會
同者ト認ルル者、於テ之ニ答フヘシ
警察官署ハ制服ヲ着シタル警察官ヲ派遣
シ政事ニ関シ集會ニ臨監セシムルコトヲ得其、
集会ニシテ政事ニ関セザルモノト雖、安寧秩序

結社ニシテ前項ニ該當スルトキハ内務大臣ハ之ヲ
禁止スルコト於テ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレザル者

ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

不備ノ制限又ハ禁止ヲ受ケ仍之ヲ犯シタル者

ハ六月以下ノ輕禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條

集會ニ於テハ重罪輕罪ノ豫審ニ関スル

事項ヲ公判ニ付セザル以前ニ講談論議シ又ハ

傍聴ヲ禁シタル訴訟ニ関スル事項ヲ講談論議

スルコトヲ得

第十一條

集會ニ於テハ犯罪ヲ煽動若ハ曲庇シ

又ハ犯罪人若ハ刑事被告人ヲ賞恤若ハ被告人ヲ陷害

スルノ講談論議ヲ為スコトヲ得

第十二條

集會ニ於ケル講談論議ニシテ前條ノ規定ニ違

背シ且ノ他安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害スト

認ルル場合ニ於テハ警察官ハ且ノ人ノ講談論

議ヲ中止スルコトヲ得

前條ヲ犯シ又ハ本條項ノ中止ニ背キタル者ハ三

月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上五十圓以下ノ罰

金ニ處ス

第十三條

結社集會又ハ多衆運動ニ関シ警察

官ノ尋問アリタルトキハ主幹者、會長、發起

人ニ於テ又ハ警察官ノ主たる社員若ハ主たる會

同者ト認ルル者、於テ之ニ答フハシ

警察官署ハ制服ヲ着シタル警察官ヲ派遣

シ政事ニ関シ集會ニ臨監セシムルコトヲ得其ノ

集會ニシテ政事ニ関セザルモノト雖ハ安寧秩序

結社ニシテ前項ニ該當スルトキハ内務大臣ハ之ヲ
禁止スルコト於テ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラルル者

ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
本條ノ制限又ハ禁止ヲ受ケ仍之ヲ犯シタル者
ハ六月以下ノ輕禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 集會ニ於テハ重罪輕罪ノ豫審ニ関スル
事項ヲ公判ニ付セザル以前ニ講談論議シ又ハ
傍聴ヲ禁シタル訴訟ニ関スル事項ヲ講談論議

スルコトヲ得
又ハ犯罪人若ハ刑事被告人ヲ賞恤若ハ救護シ又ハ刑
スルノ講談論議ヲ為スコトヲ得

第十一條 集會ニ於テハ犯罪ヲ煽動若ハ曲庇シ
第十條 集會ニ於テハ講談論議ニシテ前條ノ規定ニ違

背シ且ノ他安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害スト
認ルル場合ニ於テハ警察官ハ其ノ人ノ講談論
議ヲ中止スルコトヲ得

前條ヲ犯シ又ハ本條ノ中止ニ背キタル者ハ三
月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上五十圓以下ノ罰
金ニ處ス

第十二條 結社集會又ハ多衆運動ニ関シ警察
官ノ尋問アリタルトキハ主幹者、會長、發起
人ニ於テ又ハ警察官ノ主タル社員若ハ主タル會
同者ト認ルル者、於テ之ニ答フハシ

警察官署ハ制服ヲ着シタル警察官ヲ派遣
シ政事ニ関スル集會ニ臨監セシムルコトヲ得其ノ
集會ニシテ政事ニ関セザルモノト雖、安寧秩序

ヲ妨害スルノ虞アリト認めルトキ亦同シ此ノ場合ニハ発起人ニ於テ又ハ警察官ノ主タル會同者ト認めル者ニ於テ警察官ノ求ムル席ヲ供スルシ第一項ノ尋問ニ答ハス若ハ答ハルモ事實ヲ以テセヌ又ハ第二項ノ場合ニ於テ警察官ノ臨臨ヲ拒ミ若ハ其ノ求ムル席ヲ供セサル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 集會又ハ多衆運動ノ場合ニ於テ改ラニ喧擾シ又ハ狂暴ニ涉ル者アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ且ノ命ニ従ハサルトキハ現場ヨリ退去セシムルコトヲ得退去ヲ命セラレタルモ仍退去セサル者ハ一月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 集會及多衆ノ運動ニ於テハ武器又ハ兇器ヲ携帶スルコトヲ得ス但シ制規ニ依リ武器ヲ携帶スル者ハ以テ限ニ在ラス

前項ニ違背シタル者ハ三月以下ノ輕禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 秘密ノ結社ニ之ヲ禁ス犯ス者ハ六月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十六條 法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員議事準備ノ為ニ相團結スルモノニ對シテハ第一條及第五條ヲ適用セス

第十七條 街頭其ノ他公衆ノ自由ニ交通スルコトヲ得ル場所ニテ文書、圖画、詩歌ノ揭示、頒布、朗讀、歌吟又ハ言語形容其ノ他ノ作

為ラ爲シ具ノ状況安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗
ヲ害スト認ムルトキハ警察官ニ於テ禁止ヲ命
スルコトヲ得且ノ命ニ従ハル者ハ一月以下ノ輕
禁錮又ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 左ノ各號ノ目的ヲ以テ他人ニ對シテ暴行
シ脅迫シ若ハ公然誹毀シ又ハ身ニ傷ヲ目的
以テ他人ヲ誘惑若ハ煽動スル者ハ一月以上六
月以下ノ重禁錮ニ處シ三十圓以上三十圓以下ノ
罰金ヲ附加ス使用者ノ同盟解雇又ハ勞務
者ノ同盟罷業ニ加盟セラル者ニ對シテ暴行
者ハ公然誹毀スル者亦同シ
勞務ノ條件又ハ報酬ニ関シ協同ノ行動
ヲ爲スヘキ團結ニ加入セシメ又ハ其ノ加入ヲ妨クル

コト

二 同盟解雇若ハ同盟罷業ヲ遂行スルカ爲使
用者ヲシテ勞務者ヲ解雇ヒシメ若ハ勞務
ニ従事スルノ申込ヲ拒絶セシメ又ハ勞務者
ヲシテ勞務ヲ停廢セシメ若ハ勞務者トシテ
雇傭スルノ申込ヲ拒絶セシムルコト
三 勞務ノ條件又ハ報酬ニ関シ相手方ノ承
諾ヲ強ムルコト

耕作ノ目的ニ出ツル土地貸賃借ノ條件ニ関
シ承諾ヲ強ムルカ爲相手方ニ對シ暴行シ脅迫
シ若ハ公然誹毀スル者ハ罰前項ノ同シ

第十九條 行政官廳ハ安寧秩序ヲ保持スルニ爲
必要ト認ムルトキハ我器爆発物又ハ我器ヲ仕

為ラ爲シ具ノ状況安寧秩序ヲ紊シ若シ風俗
ヲ害スト認ムルトキハ警察官ニ於テ禁止ヲ命
スルコトヲ得具ノ命ニ従ハル者ハ一月以下ノ輕
禁錮又ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 左ノ各號ノ目的ヲ以テ他人ニ對シテ暴行
シ脅迫シ若シ公然誹毀シ又ハ身ニ號ノ目的ヲ
以テ他人ヲ誘惑シ若シ煽動スル者ハ一月以上六
月以下ノ重禁錮ニ處シ三十圓以上三十圓以下ノ
罰金ヲ附加ス使用者ノ同盟解雇又ハ勞務
者^者盤罷業ニ加盟セラル者、對シテ暴行
シ若シ公然誹毀スル者亦同シ

一 勞務ノ條件又ハ報酬ニ関シ拒固ノ行動
ヲ爲スヘキ團結ニ加入セシム又ハ具ノ加入ヲ妨クル

コト

二 同盟解雇若シ同盟罷業ヲ遂行スルカ爲使
用者ヲシテ勞務者ヲ解雇ヒシメ若シ勞務
ニ従事スルノ申込ヲ拒絶セシメ又ハ勞務者
ヲシテ勞務ヲ停廢セシメ若シ勞務者トシテ
雇傭スルノ申込ヲ拒絶セシムルコト

三 勞務ノ條件又ハ報酬ニ関シ相手方ノ承
諾ヲ強ムルコト

耕作ノ目的ニ出ツル土地貸賃借ノ條件ニ関
シ承諾ヲ強ムルカ爲相手方ニ對シ暴行シ脅迫
シ若シ公然誹毀スル者ハ罰前項ノ同シ

第十九條 行政官廳ハ安寧秩序ヲ保持スルニ爲
必要ト認ムルトキハ我器爆発物又ハ我器ヲ仕

ハミタル物件、携帶ヲ禁スルコトヲ得
前項ニ違背シタル者ハ六月以下、重禁錮ニ
處ス

第二十條 本法條ニ関スル公訴、時効ハ六箇月ト

ス

第二十一條 明治二十六年法律第四號 集會及改

社法ハ之ヲ法律施行、自今廢止ス

治安警察法案理由書

治安警察法上別ニ規定ヲ設クルノ必要アリ是
本法案ヲ提出スル所以ナリ

治安警察法

第一條 政事ニ關スル結社ノ主幹者(支社ニ在リテハ支社ノ主幹者)ハ結社組織ノ日ヨリ三日以内ニ社名、社則、事務所及其ノ主幹者ノ氏名ヲ其ノ事務所所在地ノ管轄警察官署ニ届出ツヘシ其ノ届出ノ事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

前項ノ届出ヲ爲ササル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條 政事ニ關シ公衆ヲ會同スル集會ヲ開カムトスル者ハ發起人ヲ定ムヘシ

發起人ハ到達スヘキ時間ヲ除キ開會三時間以前ニ集會ノ場所、年月日時ヲ會場所在地ノ管轄警察官署ニ届出ツヘシ

届出ノ時刻ヨリ三時間ヲ過キテ開會セス若ハ三時間以上中斷スルトキハ届出ハ其ノ效ヲ失フ法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員選舉準備ノ爲ニ選舉權ヲ行フヘキ者及被選舉權ヲ有スル者ニ

限リ會同スル所ノ集會ハ投票ノ日ヨリ前五十日間ハ本條第二項ノ届出ヲ要セス

第一項第二項ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二項ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條 公事ニ關スル結社又ハ集會ニシテ政事ニ關セサルモノト雖安寧秩序ヲ保持スル爲届出ヲ必要トスルモノアルトキハ命令ヲ以テ第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

第四條 屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ若ハ多衆運動セムトスルトキハ發起人ヨリ十二時間以前ニ會同スヘキ場所年月日時及其ノ通過スヘキ路線ヲ管轄警察官署ニ届出ツヘシ但シ祭葬、講社、學生、生徒ノ體育運動其ノ他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一項ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 左ニ掲クル者ハ政事上ノ結社ニ加入スルコトヲ得ス

一 現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍軍人

二 警察官

三 官立公立私立學校ノ教員學生生徒

四 女子

五 未成年者

六 公權剝奪及停止中ノ者

未成年者ハ公衆ヲ會同スル政談集會ニ會同シ若ハ其ノ發起人タルコトヲ得ス

公權剝奪及停止中ノ者ハ公衆ヲ會同スル政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

第六條 日本臣民ニ非サル者ハ政事上ノ結社ニ加入シ又ハ公衆ヲ會同スル政談集會ノ發起人タルコトヲ得ス

第七條 前二條ヲ犯シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

前二條ニ背キ入社セシメタル者ハ罰前項ニ同シ

第八條 結社ハ法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員ニ對シテ其ノ發言表決ニ付議會外ニ於テ責任ヲ負ハシムルノ規定ヲ設クルコトヲ得ス

第九條 安寧秩序ヲ保持スル爲必要ナル場合ニ於テハ警察官ハ集會又ハ多衆ノ運動若ハ群集ヲ制限シ又ハ禁止スルコトヲ得

結社ニシテ前項ニ該當スルトキハ内務大臣ハ之ヲ禁止スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ制限又ハ禁止ヲ受ケ仍之ヲ犯シタル者ハ六月以下ノ輕禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 集會ニ於テハ重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ヲ公判ニ付セサル以前ニ講談論議シ又ハ傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ヲ講談論議スルコトヲ得ス

集會ニ於テハ犯罪ヲ煽動若ハ曲庇シ又ハ犯罪人若ハ刑事被告人ヲ賞恤若ハ救護シ又ハ刑事被告

人ヲ陷害スルノ講談論議ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 集會ニ於ケル講談論議ニシテ前條ノ規定ニ違背シ其ノ他安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害スト認ムル場合ニ於テハ警察官ハ其ノ人ノ講談論議ヲ中止スルコトヲ得

前條ヲ犯シ又ハ本條ノ中止ニ背キタル者ハ三月以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 結社、集會又ハ多衆運動ニ關シ警察官ノ尋問アリタルトキハ主幹者、會長、發起人ニ於テ又ハ警察官ノ主タル社員若ハ主タル會同者ト認ムル者ニ於テ之ニ答フヘシ

警察官署ハ制服ヲ著シタル警察官ヲ派遣シ政事ニ關シ公衆ヲ會同スル集會ニ臨監セシムルコトヲ得其ノ集會ニシテ政事ニ關セサルモノト雖安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルトキ亦同シ此ノ場合ニハ發起人ニ於テ又ハ警察官ノ主タル會同者ト認ムル者ニ於テ警察官ノ求ムル席ヲ供スヘシ

第一項ノ尋問ニ答ヘス若ハ答フルモ實ヲ以テセス又ハ第二項ノ場合ニ於テ警察官ノ臨監ヲ拒ミ若ハ其ノ求ムル席ヲ供セサル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 集會又ハ多衆運動ノ場合ニ於テ故ヲ喧擾シ又ハ狂暴ニ涉ル者アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ現場ヨリ退去セシムルコトヲ得退去ヲ命セラレタルモ仍退去セサル者ハ一月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 集會及多衆ノ運動ニ於テハ戎器又ハ兇器ヲ携帯スルコトヲ得ス但シ制規ニ依リ戎器ヲ携帯スル者ハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ違背シタル者ハ三月以下ノ輕禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 祕密ノ結社ハ之ヲ禁ス犯ス者ハ六月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十六條 法令ヲ以テ組織シタル議會ノ議員議事準備ノ爲ニ相團結スルモノニ對シテハ第一條及第五條ヲ適用セス

第十七條 街頭其ノ他公衆ノ自由ニ交通スルコトヲ得ル場所ニ於テ文書、圖畫、詩歌ノ揭示、頒布、朗讀若ハ放吟又ハ言語形容其ノ他ノ作爲ヲ爲シ其ノ狀況安寧秩序ヲ紊シ若ハ風俗ヲ害スト認ムルトキハ警察官ニ於テ禁止ヲ命スルコトヲ得其ノ命ニ從ハサル者ハ一月以下ノ輕禁錮又ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 左ノ各號ノ目的ヲ以テ他人ニ對シテ暴行シ脅迫シ若ハ公然誹毀シ又ハ第二號ノ目的ヲ以テ他人ヲ誘惑若ハ煽動スル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス使用者ノ同盟解雇又ハ勞務者ノ同盟罷業ニ加盟セサル者ニ對シテ暴行シ脅迫シ若ハ公然誹毀スル者亦同シ

コト

一 勞務ノ條件又ハ報酬ニ關シ協同ノ行動ヲ爲スヘキ團結ニ加入セシメ又ハ其ノ加入ヲ妨クル
二 同盟解雇若ハ同盟罷業ヲ遂行スルカ爲使用者ヲシテ勞務者ヲ解雇セシメ若ハ勞務ニ從事ス

ルノ申込ヲ拒絶セシメ又ハ勞務者ヲシテ勞務ヲ停廢セシメ若ハ勞務者トシテ雇傭スルノ申
込ヲ拒絶セシムルコト

三 勞務ノ條件又ハ報酬ニ關シ相手方ノ承諾ヲ強ユルコト

耕作ノ目的ニ出ツル土地賃貸借ノ條件ニ關シ承諾ヲ強ユルカ爲相手方ニ對シ暴行シ脅迫シ若ハ

公然誹毀スル者ハ罰前項ニ同シ

第十九條 行政官廳ハ安寧秩序ヲ保持スル爲必要ト認ムルトキハ戎器爆發物又ハ戎器ヲ仕込ミタ

ル物件ノ携帯ヲ禁スルコトヲ得

前項ニ違背シタル者ハ六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第二十條 本法ニ關スル公訴ノ時效ハ六箇月トス

第二十一條 集會及政社法ハ之ヲ廢止ス

治安警察法案理由書

治安警察上別ニ規定ヲ設クルノ必要アリ是本案ヲ提出スル所以ナリ